

日本の大学におけるスポーツサークルの誕生と拡大 —高度成長期の早稲田大学を中心にして—

中村 哲也
高知大学

キーワード: スポーツサークル, 大衆化, 差異(化), 多様(性)

【抄 録】

日本の大学スポーツは、運動部とスポーツサークルの二重構造で成立している。運動部は数多くの先行研究が積み重ねられているが、スポーツサークルが誕生した時期や歴史的経緯については、先行研究では実証的に解明されていない。

そこで本研究は、1950年代から80年代の早稲田大学に焦点を当て、スポーツサークルが、いつ、どのようにして、どのような理由から成立したのかを実証的に明らかにした。また、上記の課題の検討を通じて、スポーツサークルの歴史的評価や「日本的スポーツ論」について論じた。

本論文の結論は、以下のとおりである。

日本の大学でスポーツサークルが誕生した背景には、1920年代以降の大学運動部の高度化があった。私大の運動部の競技レベルが高度化しトップアスリート養成の拠点となる一方で、練習や選手間競争が激化し、厳格な上下関係が日常化する中で、多くの学生が淘汰されたり、参加を断念したりすることとなった。そのような学生たちがスポーツをするために組織したのが、スポーツサークルであった。

こうした経緯から、設立当初のスポーツサークルは「素人歓迎」や「楽しさ」「緩い上下関係」といった運動部との違いを強調して活動が行われた。大学からの支援は少なかったが、学生たちが自ら活動場所を見つけたり、喧々諤々の議論を経て方針が立てられたりして、安定した活動が行われるようになった。

1970年代後半以降には、大学の枠を超えたサークルのリーグ戦や大会も組織されるようになっていった。対外試合への勝利と自由・平等な組織運営を両立するために、ランキング制度や選挙、出率、総会等、サークルごとに様々な工夫を凝らした実践が行われていった。また、スポーツサークル数が増加して、一競技に多数のサークルが存在するようになるなかで、特色として「ミーハー禁止」等の方針を打ち出すサークルも現れるなど、団体や個人の競技志向や方針の違いといった差異を含む、多様な活動が行われるようになっていった。

スポーツサークルは、1960年代以降に早大以外の大学でも次々と誕生した。その背景には、高度成長期の学生数の増加、学生の経済状態の改善、スポーツ施設数の増加、学生運動等の要因があった。

このような歴史的事実から、スポーツサークルはスポーツの大衆化に重要な貢献を果たしていることや、「日本的スポーツ論」は主に運動部で見られるもので、日本においても非競技志向で楽しみ重視のスポーツが行われていたことが明らかとなった。

スポーツ科学研究, 19, 84-118, 2022年, 受付日:2021年12月3日, 受理日:2022年11月30日

連絡先: 中村 哲也 7808520 高知大学 高知市曙町 2-5-1

t-nakamura@kochi-u.ac.jp